



島原市

# 防災マップ

保存版

あなたの避難が

みんなの命を救う。

私たちの命を守る地図



# はじめに

## 「島原市防災マップ」発刊によせて

この「島原市防災マップ」は、雲仙普賢岳噴火災害から30年を迎えるにあたり、市民の皆様と風水害や地震などの自然災害に関する基本的な情報を共有し、事前の備えとして役立てていただくことを目的に作成いたしました。

近年、大規模災害と呼ばれるような大雨や地震が、毎年のように全国各地で発生しており、本市においても昨年の台風10号では、2,000人を超える方々が避難されるなど、大きな災害がいつ発生してもおかしくない状況にあり、危機感が高まっています。

このような大雨や地震などの自然災害を私たちには止めることはできませんが、その被害を普段からの備えと心構えによって、減災することはできます。

本市では、地域と協働した機能的で実行力のある、日本一の自主防災組織を目指し、災害に強いまちづくりのために様々な防災・減災の取り組みを進めていますが、ひとたび発生した災害から自らを、そして地域を守るためには、何よりも市民の皆様一人ひとりが、「自分の命は自分で守る、自分たちの地域は自分たちで守る」といった「自助・共助」の防災意識を高めていただき、地域において「顔の見える関係」の再構と地域防災の活性化を図る必要があります。

この防災マップは、新たに土砂災害警戒区域、大手川浸水想定区域を掲載するとともに、津波や雲仙岳の噴火や溶岩ドーム崩壊の想定最大範囲、避難所などを掲載しており、様々な災害に対する知識と備えをまとめていますので、家庭や職場で防災対策について話し合っていた際に活用していただき、また、自主防災組織などの活動にも役立てていただきたいと思います。

市民の皆様と行政が連携・協力し「災害に強いまちづくり」の実現にむけて、全力で取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和3年3月 島原市長 古川 隆三郎



## 目次

- P1 ● 自主防災組織
- P2 ● わが家の防災対策
- P3 ● 家庭での備え
  - 非常時の持ち出し品
- P4~5 ● 非常時の注意点
- P6 ● 洪水・浸水害
- P7 ● 土砂災害
- P8 ● 風水害・台風
- P9 ● 火山災害から身を守るために
- P10~11 ● 溶岩ドーム崩壊からいのちを守る
- P12~13 ● 津波災害警戒区域図
- P14~15 ● 大手川洪水ハザードマップ
- P16 ● 防災マップ全体図(索引図)
  - 防災マップ①~②
- P60 ● 非常時の情報伝達と入手
  - 警戒レベルを用いた避難情報
- P61 ● 災害時の緊急連絡
- 巻末 ● 指定避難所・緊急避難場所一覧表

発行：島原市 制作・著作：株式会社ゼンリン長崎営業所 作成：令和3年3月

「この地図は、島原市長の承認を得て、同市発行の島原市街図(1/2,500)を使用し調整したものである。(承認番号)31島都第165号 令和元年9月3日」  
「JIS Z 8210 広域避難場所 避難所(建物)」  
「QRコードは㈱デンソーウェブの登録商標です」

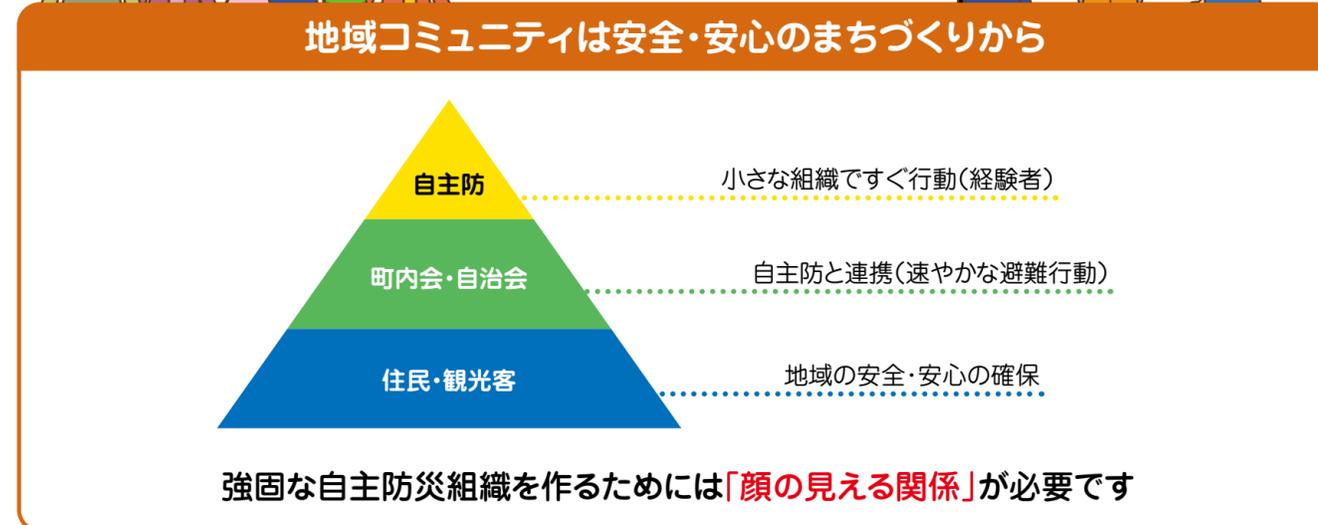
(禁無断複製)©2021 ZENRIN CO., LTD.



# 自主防災組織

## 日本一の自主防災組織を目指して

自主防災組織とは災害発生時はもちろん、日頃から地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織です。



## 自主防災組織各班の役割

	情報班	消火班	避難誘導班	救出救護班	給食・給水班
平常時	 ● 住民に対する連絡体制、手段の検討 ● 情報収集・伝達の訓練 ● 防災意識の啓発・広報 ● 公的防災機関との連携	 ● 初期消火訓練の実施 ● 消火用水の確認 ● 出火防止の啓発	 ● 避難路、避難場所を把握 ● 避難誘導訓練の実施 ● 避難路の安全点検 ● 災害時要援護者の把握	 ● 応急手当、衛生知識の普及 ● 救命講習への参加 ● 応急医薬品、救助資材の点検 ● ノウハウを持った住民の把握 ● 救助用資材の点検	 ● 食料、飲料水の備蓄について啓発 ● 炊き出し訓練の実施 ● 炊き出し用資材の点検
緊急時	● 住民に災害情報を正確に伝える ● 対策本部へ被害情報を報告	● 初期消火活動	● 避難の呼びかけ・誘導・避難支援 ● 避難地における安否確認	● 負傷者の搬送、応急手当	● 物資等の受入・配布 ● 炊き出しの支援



# わが家の防災対策



家の中の防災対策はどこが変わったかな？  
変わったところは10こあるよ。探してみよう

## 防災対策前



## 防災対策後



非常時に備え、日頃から  
整理整頓をこころがけよう



- ① 電気の留め具
- ② 食器棚の転倒防止具
- ③ 食器棚の開閉留め具
- ④ タンスの留め具
- ⑤ おもちゃ箱で整理されている
- ⑥ 本棚で整理されている
- ⑦ 靴が直ぐには履けるように整理されている
- ⑧ テーブルの上が整理されている
- ⑨ ひもで転倒防止をおこなっている
- ⑩ 防災リュックが準備されている



# 家庭での備え



災害に備え防災対策を家族で話し合ってみよう。

- 家の中ではどこが一番安全かな？
- 救急箱や消火器など揃っているかな？
- 赤ちゃんやお年寄り是谁がたすけるのかな？
- 避難所や避難場所に行くときの安全なルートはどの道がいかな？
- 避難するとき、誰が何をっていくのかな？
- 非常時に持ち出す物を詰めた袋(リュック)はどこに置いておく？
- 家の人と連絡を取り合う方法はどのようにする？
- 家の人と集まる場所はどこにする？
- 昼と夜の場合は役割が違うかも？みんなが何をやるかはっきり決めておこう！



# 非常時の持ち出し品



防災対策のページで非常用のリュックに気づいたかな？  
中に何が入っているのかみてみよう！

- ### 携帯ラジオ
- ラジオ
  - 電池(多めに用意)

- ### 救急医療品
- 常備薬
  - 鎮痛剤
  - 風邪薬
  - 胃腸薬

- ### 非常食品
- 水筒
  - 紙皿
  - 缶切り
  - 栓抜き
  - 紙コップ
  - 非常用食品
  - 缶詰
  - ミネラルウォーター
  - 離乳食
  - 粉ミルク



- ### 貴重品
- 現金
  - 印鑑
  - 健康保険証
  - 預金通帳
  - 免許証
  - 権利証書

- ### 懐中電灯
- 懐中電灯(できれば一人にひとつ)
  - 電池(種類に注意)

- ### その他
- ヘルメット
  - ライター
  - タオル
  - ウェットティッシュ
  - 生理用品
  - 紙おむつ
  - 携帯電話の充電器
  - ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う)
  - 衣類(下着・上着など)
  - カップ
  - 防災マップ(この本)



ひじょうじ ちゅういてん  
非常時の注意点



さいがい お  
災害が起きたときは  
いつもの街と違うよ  
いろんなところで危険な  
ところ、助けを求める人が  
いるから探してみよう



くるま みず うご こま ひと  
車が水につかって動けなくなって困っている人  
がいるよ。  
みず さかさが 増えてきたら無理に進んではだめだよ。



あめ すいろ  
雨がひどくて水路に  
きづかず助けを求め  
ている人がいるよ。  
みず さかさが 増えると、道路と水路の境が見えなく  
なるので早めに避難しよう。



じしん へい くず  
地震で塀が崩れかけているよ。  
ひなん とき たか へい さ ひなん  
避難する時は高い塀を避けて避難しよう。

答え



マンホールの蓋が空いている  
ことに気づかず落ちてしまって、  
助けを求めている人がいるよ!  
長い棒で地面を確かめながら  
避難しよう。



かぜ でんせん き  
風で電線が切れている!  
ちが 近づくと感電するから、絶対に  
近づいたらだめだよ。



こうすい に おく ひと たす  
洪水で逃げ遅れた人が助  
けを求めているよ。  
無理に避難所に行かない  
で高いところに逃げよう。

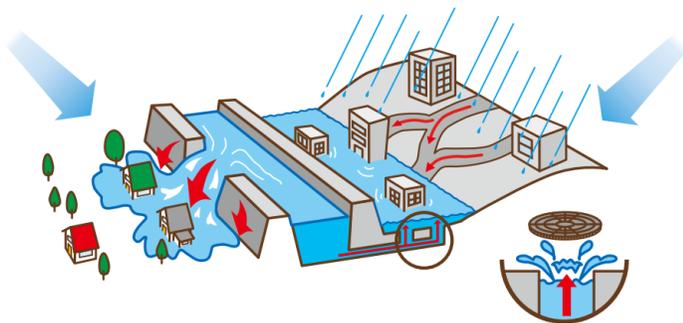


# 洪水・浸水害

**氾濫の種類** 雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

## 外水氾濫

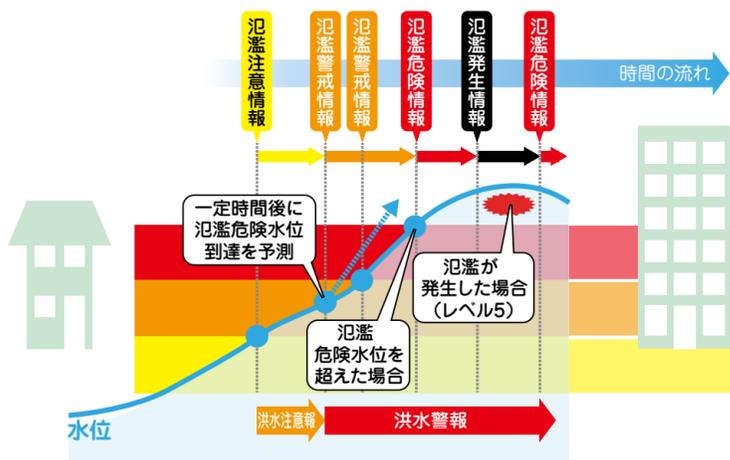
大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を超える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すため、最大の注意が必要。



## 内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水ははけきれず溜まって起きる洪水。的確なタイミングで警報や避難勧告を出すのが難しいため、注意が必要。

**河川の危険水位と洪水予報** 河川ごとに設定された以下の危険水位に応じ、河川管理者と気象庁から洪水予報が発表されます。自治体はこの情報を目安にして、避難に関する情報を発令します。



河川名	大手川	湯江川	西川	白水川	新湊川
観測所	大手川水位局	—	—	—	—
氾濫危険水位 (レベル4)	2.8	2.2	2.0	1.8	1.5
避難判断水位 (レベル3)	2.4	—	—	—	—
氾濫注意水位 (レベル2)	2.2	1.8	1.6	1.4	1.2
水防団待機水位	1.6	1.3	1.2	1.0	0.9

(単位：m)

## 避難行動のポイント、危険な場所

- 浸水が始まる前に早めの避難を**  
氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してからの自宅外へ避難は危険。気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自動的に避難を開始する。
- 状況に応じた避難を**  
周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難する。移動途中であっても、危険を感じた場合は、近隣の建物のできるだけ高い階に退避する。
- やむなく浸水の中を歩く際は**  
裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい細靴などが適している。また、氾濫水は濁っているため、水面下が確認できない。長い棒などを杖替わりとし、側溝やマンホール、障害物に注意する。
- 川や用水路に近づかない**  
降雨が続き不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かない。やむを得ない場合は複数人で行動する。河川の様子の確認は、自治体などのライブカメラ情報を活用する。また、避難の途中も増水した川の近くを通るのは避ける。

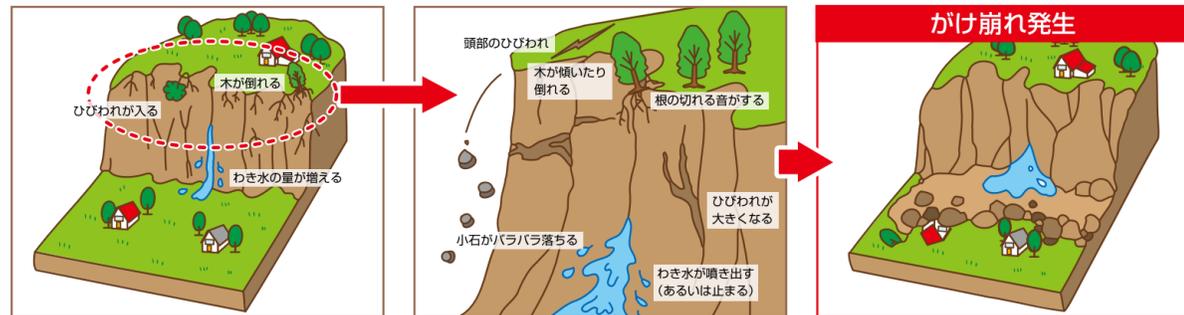


# 土砂災害

**土砂災害の種類**

## がけ崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



## 土石流

山腹・谷底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。

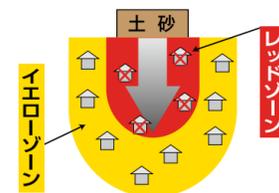


※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

**土砂災害の警戒区域**

土砂災害防止法に基づき、都道府県は調査を実施し、土砂災害のおそれのある区域を以下の通り指定しています。

- 土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン)** 建築物に破損が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域
- 土砂災害 警戒区域(イエローゾーン)** 土砂災害のおそれがある区域



**避難行動のポイント**

土砂災害は突発性が高く、甚大な被害をもたらします。上記の前兆現象は、経験則として土砂災害発生の前に感じられるものとして知られていますが、特に警戒区域内においては避難の猶予がほとんどないものと考え、「様子がおかしい」と感じたら、**ただちに避難行動をとってください。**

- 土砂災害警戒区域内、また指定が無くとも「谷の出口」や「がけの下」からは、いち早く退避する。
- 指定避難所までの移動が困難な際は、近隣の堅牢な建物の高層階へ避難する。
- 外出にも危険が伴う状況で、やむなく自宅に留まる場合は、2階以上の出来るだけ山側から離れた部屋に移動する。





# 風水害・台風

## 大雨注意報・警報・特別警報の発表のめやす

### 大雨注意報

災害が起こるおそれのあるときに注意を呼びかけて行う予報

- ・表面雨量指数基準 14
- ・土壌雨量指数基準 111

### 大雨警報

重大な災害が起こるおそれのあるときに警戒を呼びかけて行う予報

- ・表面雨量指数基準 25
- ・土壌雨量指数基準 172

### 大雨特別警報

台風や集中豪雨により、数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合に呼びかけて行う予報

・表面雨量指数は、短時間強雨による浸水リスクの高まりを示す指標で、降った雨が地表面にたまっている量を示す指数。  
・土壌雨量指数は、降雨による土砂災害リスクの高まりを示す指標で、土壌中に貯まっている雨水の量を示す指数。

### 雨の強さと降り方

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量 10~20mm	1時間雨量 20~30mm	1時間雨量 30~50mm	1時間雨量 50~80mm	1時間雨量 80mm以上
ザーザーと降り、雨の音で話し声が良く聞き取れない。この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。	どしゃ降り、傘をさしていてもぬれる。ワイパーを速くしても見づらい。側溝等があふれる。	バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる。危険地帯では避難の準備が必要。	滝のように降り、傘は全く役に立たなくなる。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。大雨による大規模な災害が発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。

### 風の強さと吹き方

10m/秒以上~15m/秒未満	15m/秒以上~20m/秒未満	20m/秒以上~25m/秒未満	25m/秒以上~
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

**台風** 日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速 15m/秒以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上~800km未満	強い	33m/秒以上~44m/秒未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/秒以上~54m/秒未満
		猛烈な	54m/秒以上

**集中豪雨** 集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。発生の予測は比較的困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

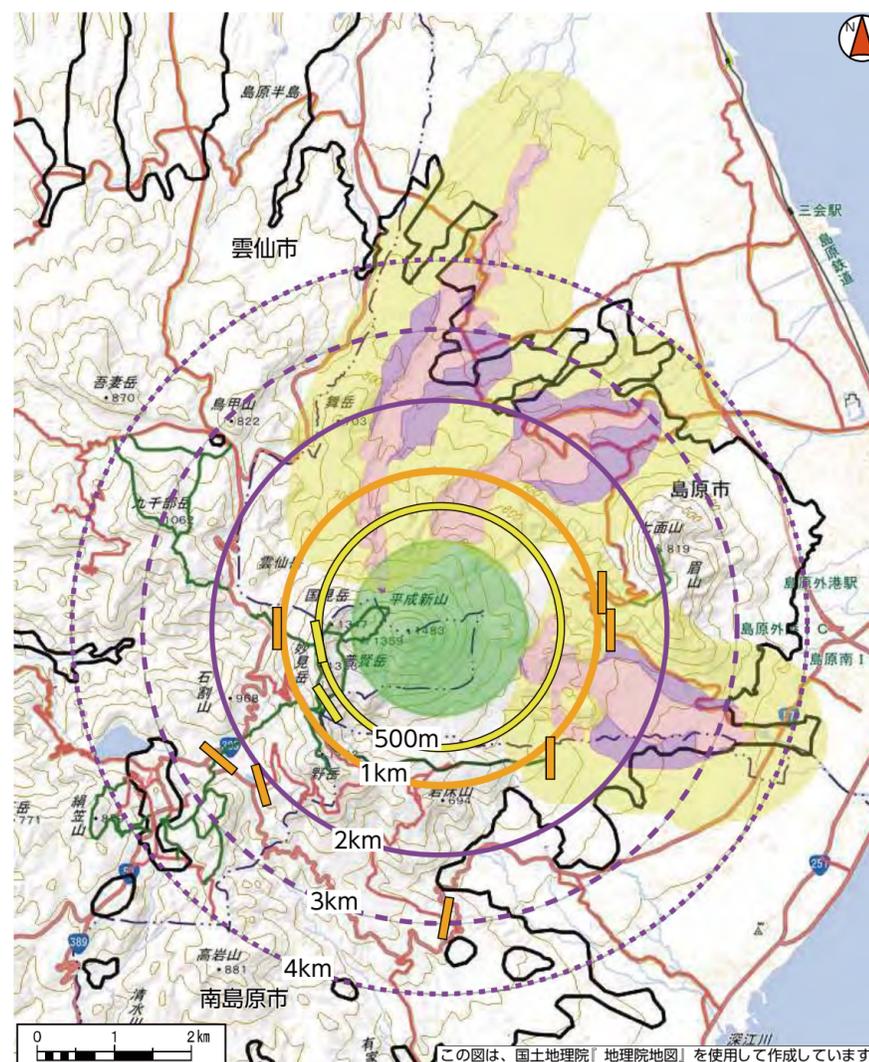
- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。



# 火山災害から身を守るために

## 雲仙岳噴火警戒レベルに応じた防災対応

- 噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。
- 各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目でわかるキーワードを設定しています。
- 対象となる火山が噴火警戒レベルのどの段階にあるかは、噴火警報等でお伝えします。



- この図は、噴火シナリオに基づき、雲仙岳火山防災協議会と調整して作成しています。
- 各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については長崎県、島原市、雲仙市、及び南島原市にお問い合わせください。

- 想定火口域
- 居住地域
- 溶岩流
- 火砕流
- 火砕サージ
- 一般道
- 登山道
- レベル2の規制箇所
- レベル3の規制箇所

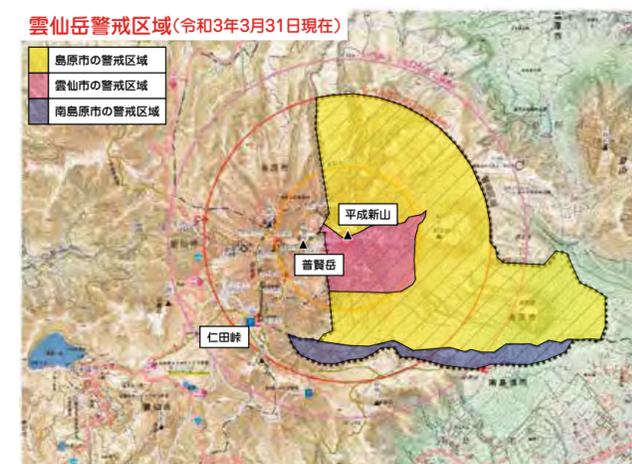
- 噴火警戒レベルが対象とする火山現象は、大きな噴石、溶岩流及び火砕流(火砕サージ含)です。溶岩ドームの崩落や土石流などについては、長崎県、島原市が発表する情報に留意してください。

- 概ね500m
- 概ね1km
- 概ね2km
- 概ね3km
- 概ね4km

● 想定火口縁を中心に噴石に警戒が必要な距離

● 噴火警戒レベルに応じて下記表のような防災対応が住民、観光客、登山者・入山者及び自治体等の防災機関に求められます。

レベル5(避難)	危険な居住地域からの避難等
レベル4(避難準備)	警戒が必要な居住地域からの避難準備、要配慮者の避難等
レベル3(入山規制)	想定火口縁から概ね1km以内の立入規制○の範囲内
レベル2(火口周辺規制)	想定火口縁から概ね500m以内の立入規制◎の範囲内
レベル1(活火山であることに留意)	状況に応じて火口内への立入規制





# 溶岩ドーム崩壊からのちを守る

～大切なのは、日頃からの心がけ～

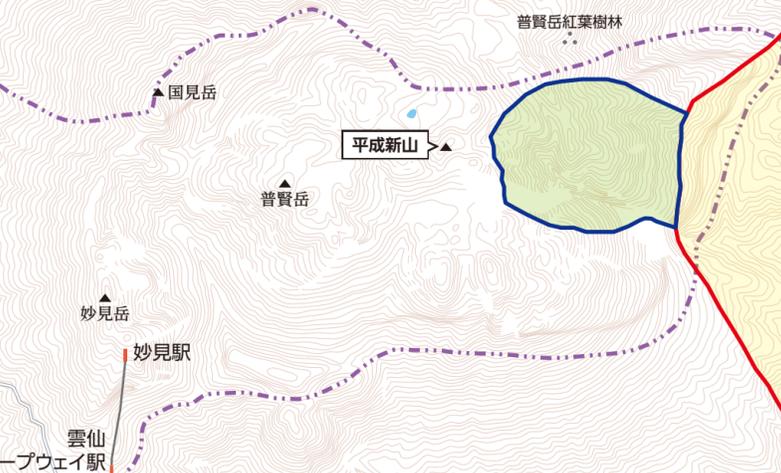
あなたのいのちを守るために  
あなた自身が心がけておくことがあります

## 溶岩ドーム崩壊時の 避難の心得

- 流れる方向(下図の赤線で囲った部分)に対して直角方向に逃げる。
- ビルの屋上など、最も近くて、できるだけ高い場所に逃げる。
- 逃げる(避難する)ルートや逃げる場所は、実際に現地に行って確認しておく。



噴火活動中の溶岩ドーム崩壊の様子(平成3年)

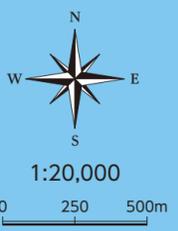
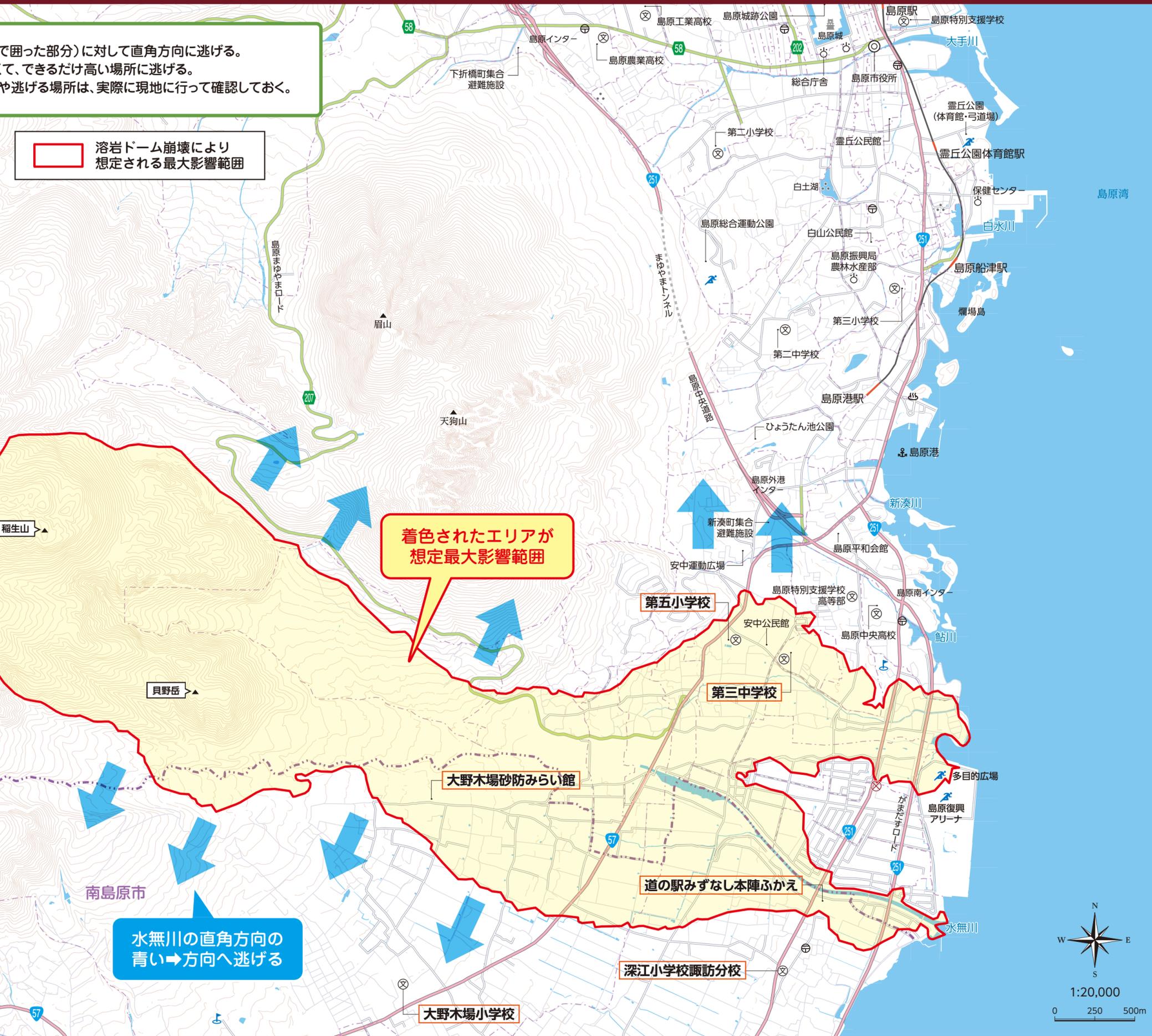


山頂部に堆積する約1億m<sup>3</sup>の火山噴出物

溶岩ドーム崩壊により  
想定される最大影響範囲

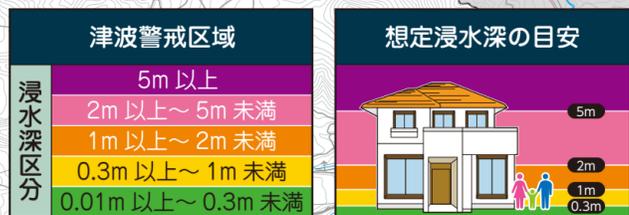
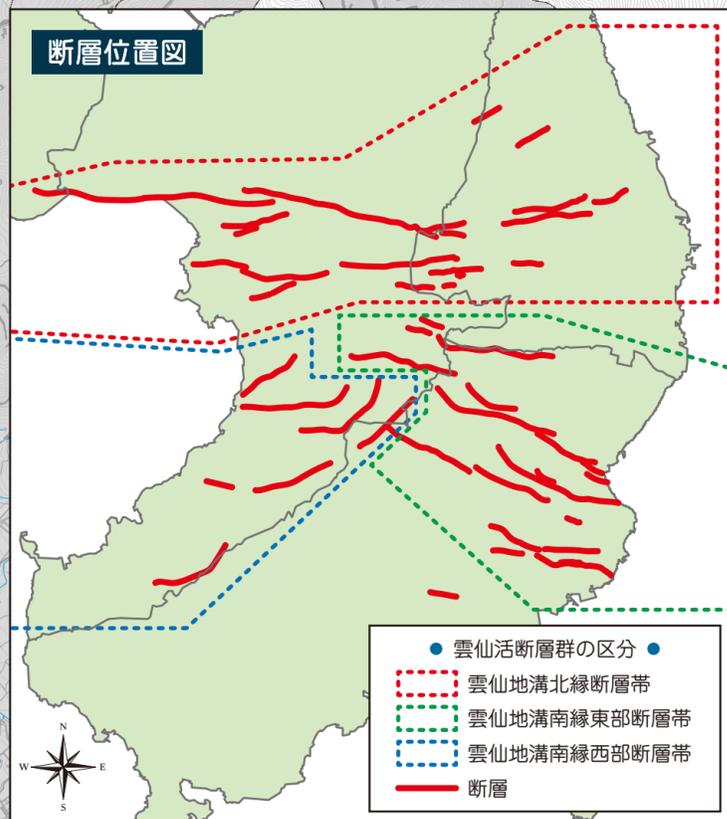
着色されたエリアが  
想定最大影響範囲

水無川の直角方向の  
青い→方向へ逃げる





# 津波災害警戒区域図



### 雲仙地溝南縁東部断層帯と西部断層帯との連動時における最高津波水位

最高津波水位 (T.P.+m)※	最大津波到達時間(分)	最大クラスの津波をもたらす津波断層モデル
7	5	雲仙地溝南縁東部断層帯と西部断層帯との連動

※東京湾平均海面 資料:長崎県地域防災計画「長崎県」

## 地震対策について | 地震発生時の時間経過別行動マニュアル

### 地震発生

**最初の大きな揺れは約1分間**

- まず、身を守り安全を確保 ●すばやく火の確認
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する

**揺れがおさまったら**

- 火元を確認 ●家族の安全を確認 ●靴をはく
- 避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等に注意
- 津波などの危険が予想される地域はすぐ避難

**みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ**

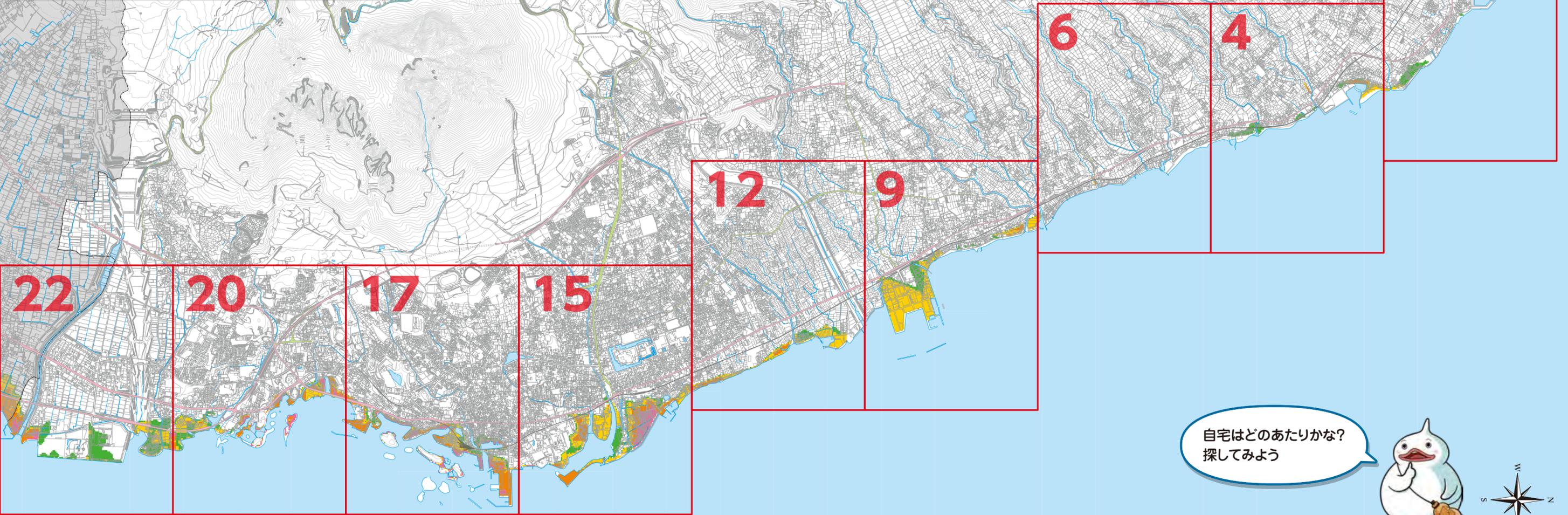
- 要配慮者の安全確保
- 行方不明者はいないか ●ケガ人はいないか
- 初期消火 ●漏電・ガス漏れに注意
- 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める ●余震に注意

**ラジオなどで正しい情報を得る**

- 大声で知らせる ●救出・救護を ●防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように ●避難時に車は極力使用しない ●電話は緊急連絡を優先する

**協力して消火活動、救出・救護活動**

- 水、食料は蓄えているものでまかなう ※3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集 ●無理はやめよう ●助け合いの心が大切 ●壊れた家に入らない



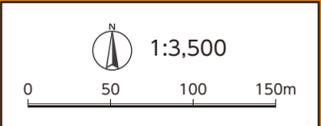
自宅はどのあたりかな？  
探してみよう



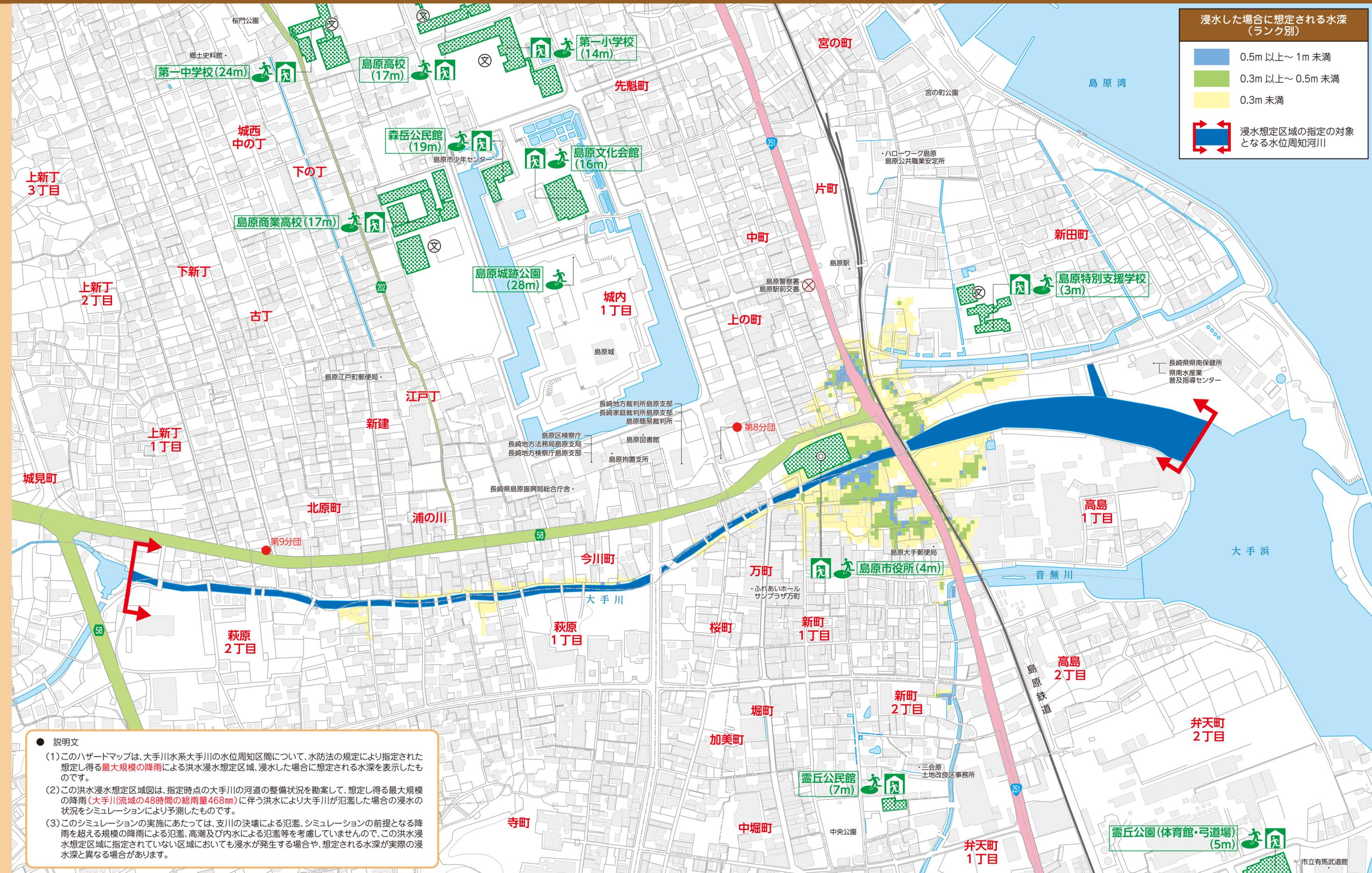


# 大手川洪水ハザードマップ

凡例	指定避難所	消防団詰所・格納庫	警察署・駐在所	国道
	指定緊急避難場所	消防署	市役所	県道



浸水した場合に想定される水深 (ランク別)	
	0.5m以上~1m未満
	0.3m以上~0.5m未満
	0.3m未満
	浸水想定区域の指定の対象となる水位周知河川



● 説明文

- (1) このハザードマップは、大手川水系大手川の水位周知区間について、水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示したものです。
- (2) この洪水浸水想定区域図は、指定時点の大手川の河道の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨(大手川流域の48時間の総雨量468mm)に伴う洪水により大手川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
- (3) このシミュレーションの実施にあたっては、支川の決壊による氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。